

ル所モ思エ不候ト申テ、暫ク不射事ハ此ク申サム程ニ逃テヤ去ヌルト思フ程ニ、惡サハ西向ニ居テ吉ク眠テ可逃クモ非ズ、而ル間マメヤカニ射ヨト責サセ給ヘバ、頼光辭ビ申シ煩テ、御弓ヲ取テヒキメヲ番テ亦申ス様、力ノ候ハバコソ仕リ候ハメ、此ク遠キ物ハヒキメハ重ク候フ、征箭シテコソ射候ヘ、ヒキメハ更ニ否ヤ不射付候ラム、箭ノ道ニ落テ候ハムハ射殺シ候ハムヨリモ、嗚呼奇候シ、此ハ何ニ可仕キ事ニカ候ラムト、紐差乍ラ表ノ衣ノ袖ヲマクリ、弓頭ヲ少シ臥セテ、弓ヲ箭ツカノ有ル限リ引キ絡テ箭ヲ放タレバ、箭ノ行クモ暗クテ不見エヌ程ニ、即チ狐ノ胸ニ射宛テツ、狐頭ヲ立テ轉テ逆様ニ池ニ落入ヌ、力弱キ御弓ニ重キヒキメヲ以テ射レバ、極ク弓勢射ル者也トモ不射付シテ、箭ハ道ニ可落キ也、其レニ此狐ヲ射落シツルハ希有ノ事也ト、宮ヨリ始奉テ候フ殿上人共モ皆思ケルニ、狐ハ水ニ落入テ死ニケレバ、即チ人ヲ以テ取テ令棄ツ、後宮極ク感ゼサセ給テ、忽ニ主馬ノ御馬ヲ召テ頼光ニ給フ、其ノ時ニ頼光庭ニ下テ、御馬ヲ給ハツテ拜シテナム上ケル、然テ申ケルハ、此レハ頼光ガ仕タル箭ニモ不候ハ、先祖ノ耻セジトテ、守護神ノ助ケテ射サセ給ヘル也トナム申テ罷出ニケル、其後頼光親シキ兄弟骨肉ニ會テモ、更ニ我が射タル箭ニモ非ズ、此レ可然キ事也トナム云ケル、亦世間ニモ此事聞エテ、極ク頼光ヲナム讚ケルトナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔曾我物語 五〕みはらの、みかりの事

みかりの人々は、日のくる、をも時のうつるをも法らずしてかりけるに、きつねなきてきたをさしてとびさりけり、人々これをとめんとて、やはすをとつてをつかけたり、君頼朝御らんせられ、かれらをめしかへして、秋の野のきつねとこそいへ、夏の野にきつねなく事ふしぎ也、たれか候うたよみ候へと仰下されば、すけつねうけたまはつて、まことに源太がうたにはなるかみもめで、雨はれ候ひぬ、是にもうたあらばくるしかるまじ、たれノもと申されければ、大名わ